

構造概要書

注記ある場合以外●印の項目を適用する。

■建設地: 京都府舞鶴市長浜2001番地

■建築物の構造概要 (増築予定 ●無 ○有)

部位	構造種別
屋根	●折板 ○ルーフデッキ ○デッキプレート+コンクリート(山仕=)
床	●デッキプレート+センターボード(仮設厚生棟) ●デッキプレート+コンクリート(山仕=80)(仮設梁)
外壁	●サイディング ○角波鉄板 ○ALC版 ○複層断熱パネル ○サンドイッチパネル
間仕切壁/界壁	●石膏ボード ○ステールパネーション○ 下地: ●LGS ○木製
柱	●S ○RC ○SRC
大梁	●S ○RC ○SRC
小梁	●S ○RC ○SRC
基礎	●直接基礎(○独立 ●連続 ○べた ○複合) ●杭基礎(●鋼管 ○PHC ○)○その他( )
地盤	●砕石 ○再生砕石 ○割り石 ○砂利 ○地盤改良(○深層混合処理工法 ○浅層混合処理工法) ○地業杭(○ ○) ○その他 地盤補強用鋼管杭 ●土間コンクリート(t=100) カッター目地 ○有り ●無し フォーク走行の考慮 ○有り ●無し 地中梁と土間の間のコンクリート ○有り ●無し 地中梁と土間の間の差し筋 ○有り ●無し ○床パネル(t=102 合板12、根太90×30@300) ○構造スラブ(t= ) カッター目地 ○有り ○無し フォーク走行の考慮 ○有り ○無し
1階床性能	

■構造設計条件

1) 計算ルート、地震時層間変形角の制限値γ、架橋形式

方向	計算ルート	γ	架橋形式
X方向	2	1/200	○ラーメン ●ブレース
Y方向	2	1/200	○ラーメン ●ブレース

2) 地震荷重  
 ・標準せん断力係数(一次設計用) C<sub>0</sub>=0.2  
 ・地域係数 Z=1.0  
 ・振動特性係数 Rt=1.0  
 ・重要度係数 I=1.25

3) 土圧及び水圧  
 ・土圧係数 KA= 地下外壁 KN=

4) 風荷重  
 ・速度圧 q=0.6・E・V<sub>0</sub><sup>2</sup> = 1.406 N/m  
 ・地表面粗度区分 =  
 E = 1.406 V<sub>0</sub> = 32 m/sec

5) 積雪荷重  
 ・区域 ●一般地域 ○多雪地域  
 ・垂直積雪量 90cm ・単位荷重 20N/cm<sup>2</sup>  
 ・設計用積雪荷重 長期 1800 N/m<sup>2</sup> 短期 N/m<sup>2</sup> ( N/m<sup>2</sup>)

6) 積載荷重 ( N/m<sup>2</sup>)

室名	床	小梁	主架構	地震	備考
仮設厚生棟	2300		2100	1100	
仮設梁	1800		1300	600	

7) クレーン・ホイスト荷重

種別	種類	容量(kN)	基数	備考

8) 特殊荷重

種別	位置	量	備考
高架水槽			
クレーンタワー			
エレベーター			
フォークリフト			

9) 鉄骨製作工場  
 ●指定性能評価機関のグレード( ○H ●M ○R )以上の工場とする。  
 ○上記以外の工場とする。

10) 設計用地耐力

場所	基礎形式	基礎深さ(m)		設計地耐力(kN/m <sup>2</sup> )		備考
		前先端深さ(m)	後先端深さ(m)	長期	短期	
仮設厚生棟	コンクリート基礎	-0.85		70	140	
仮設梁	杭	-9.25	-17.25	366.71	733.42	

■土質柱状図

●標準貫入試験 ○スウェーデン式サウンディング試験  
 ○平板載荷試験

平成 年 月 日

試験No. 1 孔内水位(m) G<sub>L</sub>- m

深さ(m)	土質名	打撃回数を貫入量(吹下)	N値						
			0	10	20	30	40	50	
G <sub>L</sub>									
1	別紙参照								
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									

■地業工事

地業内容	部位	厚さ(mm)	備考
捨てコン	基礎下	50	
砕石	基礎下	100	

・締固めは、ランマー3回突き、振動コンパクター2回締め又は振動ローラー締め程度とし、緩み、ぼらつき等がないように、十分締固める。  
 ・厚さが300mmを超えるときは、300mmごとに締固めを行う。  
 ・捨コンクリートは、設計基準強度 F<sub>c</sub>=15 N/mm<sup>2</sup> 以上とする。

構造特記仕様書

注記ある場合以外●印の項目を適用する。

■地盤改良工事(仮設厚生棟)

改良範囲(mm)	改良深さ(m)	基礎深さ(m)	設計基準強度 F <sub>c</sub> (kN/m <sup>2</sup> )	設計支持力(kN/本)		備考
				長期	短期	
G <sub>L</sub> -2.0~→7.6		-0.85	1000	70	140	スリーエス工法

・地盤改良に関するセメント系固化材は、六価クロム溶出量低減型固化材を使用する。ただし、六価クロム溶出試験を実施し、六価クロム溶出量が環境基準値以下であることを確認した場合はこの限りではない。

■杭工事(仮設梁)

杭種別	杭径(mm)	杭先端深さ(m)	基礎深さ(m)	設計杭支持力(kN/本)		備考
				長期	短期	
STK490	216.3	G <sub>L</sub> -17.25	G <sub>L</sub> -0.75	611.18	1222.3	G-ES/バイル工法
STK490	216.3	G <sub>L</sub> -9.25	G <sub>L</sub> -0.75	366.71	733.42	G-ES/バイル工法

・杭の先端深さは地盤状況に応じて変更することがある。  
 ・場所打ちコンクリート杭の材料はコンクリート工事、鉄筋工事の項による。  
 ・試験杭の位置等は設計図書又は工事監督者の指示による。  
 ・根固め液及び杭周囲定液の管理試験は、試験杭毎に1回、本杭20本毎に1回とする。  
 ( 粗手ない場合は、本杭30本毎に1回とする)

■コンクリート工事

使用箇所	コンクリートの種類	設計基準強度 F <sub>c</sub> (N/mm <sup>2</sup> )	気乾単位体積重量(kN/m <sup>3</sup> )	所要スランプ(mm)	所要空気量(%)
a 基礎	普通	21	23	15	4.5
b 土間コンクリート	普通	18	23	18	4.5
c					

・計画使用期間の級: ●短期(18) ○標準(24) ○長期(30)  
 ( )内数字は、耐久設計基準強度(N/mm<sup>2</sup>)を示す。  
 ・セメントの種類 ( ●普通ポルトランドセメント ○ )  
 ・粗骨材の種類・寸法 ( ●砕石 20 )  
 ・混和材料の特記 ( ●減水剤、 ○高性能減水剤、 ○ )  
 ・セメントの種類 ( ●普通ポルトランドセメント ○ )  
 ・せき板の材料 ( ●合板、 ○メッシュ型枠 ○鋼製型枠 )  
 ・練り混ぜ水 ( ●上水道水 ○上水道水以外の水 ○回収水 )  
 ・単位水量 ●18kg/m<sup>3</sup>以下、○17kg/m<sup>3</sup>以下を標準とする。  
 ・単位セメント量 270kg/m<sup>3</sup>以上を標準とする。  
 ・水セメント比は、ポルトランドセメントの場合、65%以下を標準とする。  
 ・塩化物イオン量: 0.3kg/m<sup>3</sup>以下  
 ・試験 ( 圧縮強度試験 )  
 ・供試体の採取 ( 構造体のコンクリート強度の推定試験 )  
 供試体の採取場所は、工事現場の寄降し場所とする。供試体は、コンクリートの種類が異なるごとに、1日1回以上かつコンクリートの150cm<sup>2</sup>毎又は、その半数につき1回以上とする。  
 ・供試体の養生方法は、( ●標準水中養生 ○現場水中養生 ○現場から養生 ○ア )とする。  
 現場水中養生とした場合は圧縮強度(28日)は、材齢28日までの平均気温が20℃以上の場合調合管理強度以上とする。材齢28日までの平均気温が20℃未満の場合は、F<sub>c</sub>+3N/m<sup>2</sup>とする。  
 ・コンクリート躯体の養生方法 ( ●敷木養生、 ○ )  
 ・せき板の存置期間  
 コンクリートの材齢により、又はコンクリートの圧縮強度により定められた最小存置期間のうちに取り外しを行う。  
 なお、圧縮強度により定める場合は、コンクリートの試験結果及び安全確認するための資料により、監督職員の承認を受ける。

時期	せき板		支柱	
	はり、縦、横	スラブ下、はり下	スラブ上	はり下
15%以上	2	3	8	17
5%以上	3	5	12	25
2%以上	5	8	15	28
コンクリートの圧縮強度	5.0N/mm <sup>2</sup>		設計基準強度の85%又は12N/mm <sup>2</sup> 100%	

■鉄筋工事

採用	種別	表示	使用箇所	備考
●	SD295A	D10~16	基礎	D16以下
●	SD345	D19	基礎	
○				
○				

■鉄骨

採用	種別	表示	使用箇所	備考
●	重ね継手	基礎		D19以下(特記なき限り)
○	ガス圧接			D22以上(特記なき限り)
○				

・圧接工: 公益社団法人 日本鉄筋継手協会の資格証明書を出発の事  
 ・圧接部抜き取り試験: 同作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと(200箇所を越える時は200箇所ごと)を、1検査ロットとする。  
 圧接部引張試験=3本以上/検査ロット  
 超音波探傷試験=3箇所以上/検査ロット

■鉄骨工事

種別	使用箇所	備考
SS400	プレート類	JIS G3101
SS400	母屋、つなぎ梁、隅柱	JIS G3350
STKR400	柱、小梁梁	JIS G3466
SNF400B	ブレース	JIS G3138
SN400B	ブレースシート	JIS G3136

・デッキプレート 防錆方法 ○亜鉛メッキ ○防錆塗装  
 使用方法 ●構造床 ○捨型枠 ○合成スラブ  
 施工条件 ○単軸梁 ●連続梁 ●支保工無し ○支保工有り  
 配筋 ( 無し )  
 ・接合部の構造形式 ●高力ボルト ( ●支圧接合 ○摩擦接合 ○引張接合 )  
 ●中ボルト ( ●支圧接合 ○ )  
 強度区分 ( ● 4.8 ○ 6.8 ○ 10.9 )  
 ○溶接 ( ○ 工場溶接 ○ 現場溶接 )  
 ・高力ボルト ○トルシリアル(F10T) ●JIS S 種2種(F10T)  
 ○溶融亜鉛メッキ高力ボルト(F8T)  
 ・アンカーボルト ○SR235 ○SS400 ○SNR400B ●SNR490B  
 ○AER ○AEM ○その他  
 ・スタッドボルト JIS B 1198B 戻付きスタッドによる。

防錆塗装

採用	使用箇所	塗料	塗り回数	塗り現場	備考
●	屋内部	JIS K 5674	1種	2	
●	屋外部	JIS K 5674	1種	2	

・現場溶接部、高力ボルト接合部、ボルト類などは現場タッチアップを行う。  
 ・耐火被覆を施す部分は原則として錆止め塗装をしない。

接合部の検査(検査結果は後日工事監督者に報告すること)

検査対象	検査内容	検査率又は検査数		備考
		社内	第三者機関	
突合せ溶接部	超音波探傷試験	%	%	現場溶接部は、全数検査
		%	%	
隅肉溶接部	溶接部外観検査	100	%	
		%	%	
		%	%	

・突合せ溶接部の食い違い及び仕口のズレ、アンダーカットについては、国交省告示1464号の基準を遵守する事。

訂正事項	年月日	担当	検査	担当	工事名称	受領印
	・				第二厚生棟ほか4棟整備工事	
	・				図面名称 構造概要書	
	・				作成年月日 H26・09・26	図面番号 S-01
	・				依頼番号 62-5149	年月日





